



植村牧場 株式会社

～障がい者を雇用して古都の市街地で続く牧場経営～

奈良県奈良市

植村牧場は、奈良市にある牧場で、酪農とビン牛乳の生産、直売などを行っています。障がい者雇用を始めて35年、ハローワークや養護学校^{*1}と一緒に一つずつ課題を解決しながら、市街地で牧場経営を継続してきました。現在では14名を雇用しています。障がい者の担う作業は、牛舎の管理、搾乳、牛乳のビン詰めや配達のほか、レストラン部門の接客などのフロア作業です。

法人経営概況

① 経営内容

酪農 経産牛30頭

生乳 1日 1,000本分、低温殺菌牛乳

- 戸別配達や市内の飲食店を中心にガラスビン入りの牛乳を納品
- 堆肥材料の提供を通して、近隣の耕種農家と連携
- レストラン「いちづ」、直売コーナー、イベントでの販売(正倉院展など)

② 労働力

従業員29名

③ 法人形態

一戸一人法人で法人化

④ 特徴

平成26年内閣府・農林水産省「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」受賞

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

14名、知的障がい

② 就労形態

雇用、ただし最低賃金適用除外者^{*2}含む

③ 通勤、住まい、食事など

- 4名は通勤(公共交通機関等利用)
- 10名は敷地内にあるグループホーム^{*3}を利用(住み込み)
- 昼食あり

④ 特徴

人手不足を契機に障がい者雇用を始めて35年

立地条件など

奈良市の中心部。歴史的な名所旧跡の集まる地域。創業明治16年、奈良では最も古い牧場。



障がい者が主に担う作業の様子

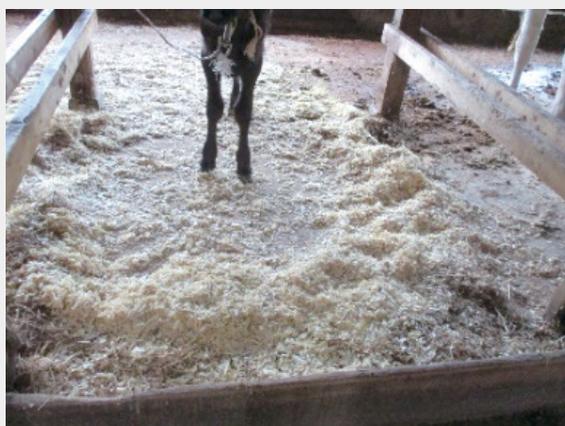
障がいのある従業員の作業は、主に、酪農部門、牛乳処理・配達部門、レストラン部門での作業です。

酪農部門と牛乳処理部門の作業は、一連の作業として複数のメンバーが牧場担当職員の指示のもとで行っています。レストラン部門の作業は、料理長の指示のもとで1名が担当しています。

酪農部門での主な作業は、①搾乳準備と搾乳、②給餌、③牛舎の管理・清掃です。搾乳作業は作業に習熟したメンバーに限られますが、そのほか細かく切り出された作業を分担して行います。早朝からの作業は、もっぱらグループホームのメンバーが担います。清掃では、牛舎に敷かれたおが屑を掃除して一定の場所に集め、新しいおが屑を撒きます。おが屑と一緒に集められた排泄物は、通勤しているメンバーが作業を行い堆肥材料になり、近隣農家に運びこまれます。

一日の作業

- 5:00 — 牛舎の掃除
搾乳、配達
- 8:00 — 休憩、朝食
給餌、瓶詰め
- 14:00 — 休憩
- 16:00 — 給餌、搾乳
- 18:00 — 終業



新しいおが屑を撒いた状態



搾乳作業



牛乳処理施設への運搬

牛乳処理部門での主な作業は、回収したビンの洗浄、牛乳のビン詰め、ビン詰めした牛乳の冷蔵庫への運搬などです。ビン洗浄は、予備洗浄を手洗いで丁寧に行った後、牛乳ビン洗浄機を操作して洗浄します。また、空ビン点検の工程では、ヒビや欠けなどのビンのキズを注意深く点検し、不良なものを取り除きます。ベテランのメンバーは、微細なキズも決して見逃しません。牛乳のビン詰めでは、規定量が充填されているかどうかなど機械の作動状況も観察します。



酪農



加工ほか

配達部門での作業は、配達トラックへの積み込み、同乗しての戸別配達（運転は障がいのない従業員）、牛乳ビンの回収などがあります。戸別配達は、配達先の場所や牛乳の種類、本数など、最初は覚えるのが困難でしたが、工夫して覚えた結果、現在は、運転者が変わっても間違いなく配達ができるそうです。

レストラン部門での作業は、フロア作業とキッチンでの補助作業があります。フロアでは、来店客の案内や注文受付、配膳下膳、レジの作業などのすべてをこなし、キッチンでは、食材の下ごしらえなどを行います。



ビン詰め作業



ビン洗浄機を操作



配達の準備

■留意点、工夫してきたこと

搾乳作業では、搾乳用機械を装着する前に牛の乳房を清潔にする必要があります。洗浄用の温水が必要になります。そこで「牛舎にお湯を運ぶ」「牛の乳房を拭く」「搾乳用の機械をつける・搾乳する」という作業に分けて、多くの障がい者が働けるように工夫し、それぞれ技能に合わせて担当しています。絞った牛乳を「牛乳の処理施設に運ぶ」作業のみを担当する人もいます。

ビン洗浄機は、市販品よりも作動速度を遅めに設定して使用しています。

■取り組みの経緯と今後の展望

植村牧場では、労働力が不足していたときに求人を出したハローワークの勧めがきっかけとなり、障がい者雇用を長期にわたり継続しています。困難が生じた場合には、ハローワークや養護学校の教員ら、行政の福祉や税務などの関係部署に相談しながら、一緒に解決策を探ってきました。現在では、畜産分野における障がい者雇用の先進事例として全国に知られています。

地域の養護学校との関係は、卒業生を雇用しているほか、職場実習を受け入れています。また、小学生の体験実習を受け入れるなど地域との様々な関係を構築しています。希望者があるときには、遠方からも農業分野を専攻する学生の実習生を随時受け入れています。

植村牧場は、作業工程の高度な自動化を進めていないことが特徴の一つです。障がい者の労働力を活用して、「手作業」の良さを残しています。手間をかけた美味しい牛乳が消費者の高い評価を得ています。施設や設備は決して最新のものではありませんが、毎日、丁寧に掃除して排泄物を直ちに処理することで、牛にもストレスの少ない快適な環境となり、臭いもほとんど気になりません。

この牧場が30年以上前に障がい者雇用を始めた当時から続けているしくみの長所を伸ばしつつ、平成20年には敷地内にグループホームを設置するなど障がい者就労に関する諸制度の変化に対応して、従業員の居住環境を改善してきました。新しいしくみの中で無理なく次世代に引き継いでいくことが課題です。

コラム

奈良県立奈良東養護学校は、小学部(50名)、中学部(40名)、高等部(67名)、高等養護部(61名)の知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校です(人数は平成28年度)。

高等養護部では、福祉コースと農業コースが選択でき、一人ひとりの実態に応じて将来の自立や社会参加に向けた知識や技能を身につけ、互いに協調する力や正しい人間関係を築く力を育てる教育が行われています。

様々な職場を体験して将来を考える職場実習が行われていて、実習先には農園芸分野の企業も含まれています。

高等養護部の卒業生の半数以上が一般の企業に就職していますが、農畜産業関連企業への就職実績はあまり多くないようです。



多様な作物を栽培する農作業の実習畑



植村牧場では、レストラン、直売所、資料館などを併設し、多様な訪問者を受け入れる

障がい者就労に関わる用語

- ※1 養護学校 → p.57
- ※2 最低賃金の適用除外 → p.56
- ※3 グループホーム → p.56

関連情報

法人URL <http://www.uemura-bokujyo.co.jp/>

連絡先 TEL 0742-23-2125

その他 動画あり(約10分) URL:<http://www.lipross.jp/> 畜産経営支援協議会



酪農



加工ほか



有限会社 とうはく畜産

～服薬しながらの長期勤続で障がい者雇用に手応え～

鳥取県東伯郡琴浦町

有限会社とうはく畜産は、肉用牛肥育頭数1,650頭、年間出荷頭数950頭の肉用牛肥育を主体とする個別経営で3カ所の農場で飼養管理がされています。社員数は18名(男13名、女5名)で、現在障がい者は雇用されていません。

しかし障がい者は雇用されていないものの、持病を治療中の2名を雇用しており、それぞれ3年、20年勤務が続いています。鳥取県では、障がい者雇用の拡大が積極的に取り組まれており、経営主も障がい者の雇用に積極的で、社会貢献に意欲を有しています。取引先の視察も多いことから農場内の掃除の徹底や子牛の哺育・育成など仕事の切り出しを行うことによる障がい者雇用の可能性も見込まれています。

法人経営概況

① 経営内容

肉用牛繁殖雌牛:8頭(増産予定)
肉用牛飼育:1,650頭
子牛30頭
年間出荷頭数950頭
3つの農場で管理、主に黒毛和牛

② 労働力

常用雇用:18名(家族を含む)
平均年齢38歳、男13名、女5名

③ 法人形態

有限会社

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

- 障がい者としての雇用は無し
- 持病のある人(治療と投薬により発作は抑制、見守りは必要)2名

② 就労形態

雇用

③ 特徴

- 1名は20年勤続。ハローワークの紹介ではなく、近隣の農協の合併時に転職希望があり、知人の紹介で受け入れ。
- 1名は3年目。知人の紹介で農業大学校から受け入れ。
- 申請すれば障害者手帳^{*1}を取得できるが2名とも申請していない。

立地条件など

鳥取県の中中部、大山山麓の豊かな自然環境に恵まれた地域で、江戸時代から続く和牛産地です。



障がい者が主に担う作業の様子

- 主に、軽作業(牛舎の掃き掃除など)を担当しています。
- 淡々とした仕事ぶりで、一生懸命に働くという優れた面があります。
- 投薬により日常生活への支障はほとんどありませんが、発作時の対応などには配慮が必要です。



今後の展望、課題

- 今後の障がい者雇用の可能性については、鳥取県では障がい者福祉について積極的な取組を進めていることから、社会貢献という意味でも障がい者雇用が積極的に考えられています。
- 雇用する場合は、3農場に一人ずつを想定しています。仕事の切り出しとしては、余った飼料の清掃や整理整頓などの軽作業や、子牛の哺育・育成の仕事、視察対応のための農場全体の清掃などを想定しています。重機械の作動中は、作動していない農場での作業を割り振るなどの方法により、安全な作業環境を確保することができます。
- 不安な点は、従業員とのコミュニケーションや指導方法、ならびに交通の便が悪いため通勤手段の確保です。危険を伴う機械作業も多く、事故や災害の無い作業環境づくりを心掛ける必要があります。安定的な障がい者雇用を実現して、障がい者に安心して働いてもらうためにも、支援体制とともに採用ルートの構築も、関係機関の協力を得ながら進める必要があります。

コラム

鳥取県の農福連携

鳥取県では、「あいサポート運動」や「鳥取発!農福連携モデル事業」など、積極的な取り組みを行ってきました。農福連携モデル事業での取り組みは、平成22年度と24年度に事例集にまとめられています。畜産の事例はありませんが、作業例として参考になります。

⇒ 「鳥取発!農福連携事例集」
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=203076>

障がい者就労に関わる用語

※1 障害者手帳 → p.57

関連情報

法人URL <http://touhaku-chikusan.com/>

所在地 鳥取県東伯郡琴浦町大字笠見799-2



大山乳業農業協同組合

～協同組合組織で障がい者を雇用～

鳥取県東伯郡琴浦町

昭和41年に設立された大山乳業農業協同組合は、平成15年に県内の全酪農家が組合員となるに至り、県内唯一の酪農生産者団体となりました（正組合員数178名、准組合員数794名）。現在の従業員数は、常時雇用が325名、有期雇用のパート・アルバイト100名で、うち知的障がい者1名、精神障がい者1名、身体障がい者3名の計5名が常時雇用されています。

障がい者の雇用は、10年以上前からで、ハローワーク等からの指導がきっかけで、組合員らの紹介により、養護学校^{*1}の卒業時より採用しています。担当する業務内容は、回収したビンの仕分け・洗浄等、また身体障がい者の3名は、受発注を含めて一般業務に配置されています。全県規模の組合として障がい者雇用に取り組んできました。

法人経営概況

① 経営内容

酪農生産の為の指導、生産資材を斡旋販売する購買事業及び生乳の処理、加工、販売事業が主。

② 労働力

常時雇用325名、パート・アルバイト100名。

③ 法人形態

大山乳業農業協同組合は、鳥取県内全部の各農家から集めた牛乳で、牛乳・乳製品の販売をしている日本で唯一の協同組合。出荷農家142戸、正組合員178名、准組合員794名。全額農民資本による一県一生産組合一処理工場という全国にも類を見ない経営体制。

④ 特徴

本社は鳥取県中部にあり、販売業者は京都・岡山・津山・広島・北九州ほか出張所や直売所がある。本社工場では、加工乳・乳飲料・バター・粉乳・生クリーム・アイスクリーム・ヨーグルト・菓子類を製造している。販売は牛乳が45%前後、関西地区が47%余り。飲用乳はガラスビン入り牛乳が23.1%、紙パックが73%。ガラスビン入り牛乳の需要は次第に減りつつある。

・ふれあい体験施設「大山まきば」は大山山麓にある人・自然・畜産の共生地域

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

5名(知的障がい:1、精神障がい:1、身体障がい:3)
最も多いときは9名を雇用

② 就労形態

常時雇用。障がいを理由とした賃金の差はない。毎年評価して能力に応じて昇給あり。

■立地条件など

鳥取県の中部、大山山麓の豊かな自然環境に恵まれた地域で、江戸時代から続く和牛産地です。

■障がい者が主に担う作業の様子

- 身体障がいの3名は、販売部門(津山の営業所)で、受発注から配送関係、商品管理に従事しています。障がいの程度は、手指の障害で自動車の運転にも支障はありません。
- 知的及び精神障がいのある2名は、製造・加工部門で、原材料の仕訳の補助、ビンの選別や洗い場への準備作業(配達先から回収した牛乳ビンのフタ等の除去、仕分け、整理整頓など洗ビン機へ入れる前の屋外作業)などの業務を担当しています。
- 障がい者という特別な扱いをすることなく働くことができおり、職場の理解は進んでいます。
- 過去に、感受性の強い人が、周囲から注意を受けることが負担になって離職に至ったことがあり、注意の仕方や叱り方に配慮しています。



■取り組みの経緯

平成18年から障がい者雇用が開始されました。ハローワークからの働きかけがきっかけでした。最多のときには9名が就労していました。組合員や酪農家からの紹介による受け入れもありましたが、知的及び精神障がいのある2名は、10年ほど前に特別支援学校卒業時に受け入れています。

■今後の展望、課題

- **新規障がい者雇用の可能性について**
- 近年は、退職者の補充をしていないため、障がい者雇用についても現状維持が精一杯の状況です。
- ビン入り牛乳の需要が減少傾向にある中で、知的障がいのある人に適した作業を見つけにくいのが現状です。
- 組合員である酪農家の高齢化や後継者難は進行しており、個別経営における協業化していない部門での雇用の可能性が想定されます。

障がい者就労に関わる用語

※1 養護学校 → p.57

コラム

地域との連携

障がい者雇用の表彰制度の推薦等で、以前から、ハローワークなど障がい者雇用支援機関との関係はできていました。また、近隣に新設の特別支援学校があり、この春に1期生が卒業します。

雇用後に本人の思いと仕事が合わない場合もあり、相談窓口の充実や、職場実習等を通じた特別支援学校との関係強化が課題です。

関連情報

法人URL <http://www.dainyu.or.jp/>

所在地 鳥取県東伯郡琴浦町大字保37-1